

仙台市のエイズ・性感染症の現状(令和3年12月末現在)

1. HIV・エイズ発生動向

(1) HIV感染者とエイズ患者報告数 年次推移の比較

○ 全国の状況 (R3年は速報値)

・令和2年のHIV感染者数は750件、エイズ患者数は345件で、HIV感染者数とエイズ患者数を合わせた新規報告数は1,095件であった。エイズ患者年間新規報告数は4年ぶりに増加した。

・令和3年のHIV感染者数とエイズ患者数を合わせた新規報告数(速報値)は1,047件である。【図1】

図1 全国のHIV感染者とエイズ患者報告数の年次推移 【昭和59年～令和3年】※R3年は速報値

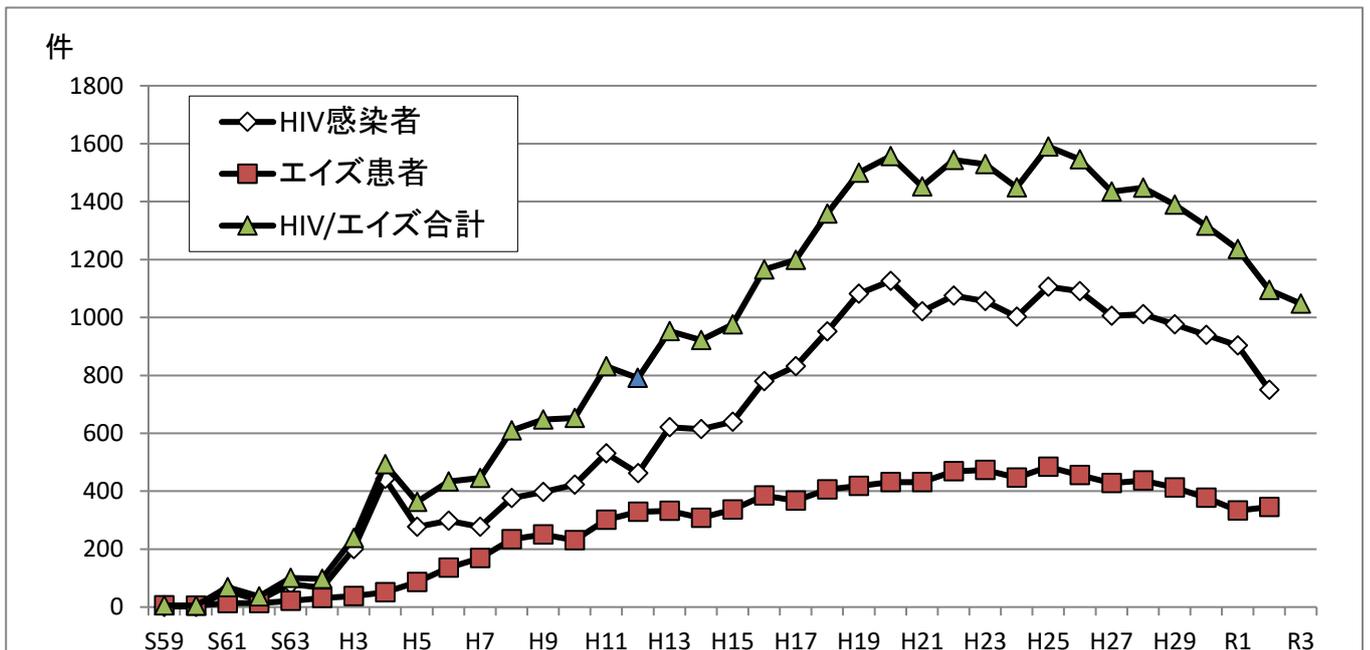
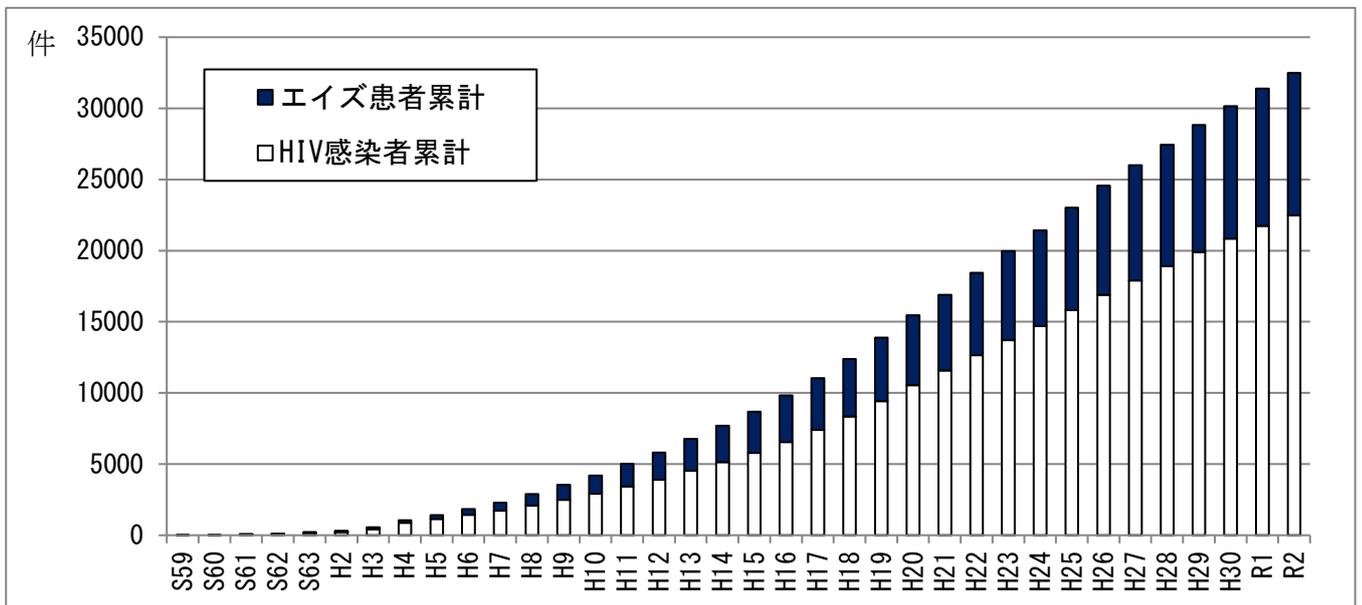


図2 全国の令和2年までの累積報告数



○ 仙台市の状況（R3年は速報値）

・新規報告数は令和2年（確定値）がHIV感染者5件、エイズ患者2件の計7件、令和3年（速報値）がHIV感染者6件、エイズ患者3件の計9件であった。【図3】

図3 仙台市のHIV感染者とエイズ患者報告数の年次推移【昭和63年～令和3年 ※R3年は速報値】

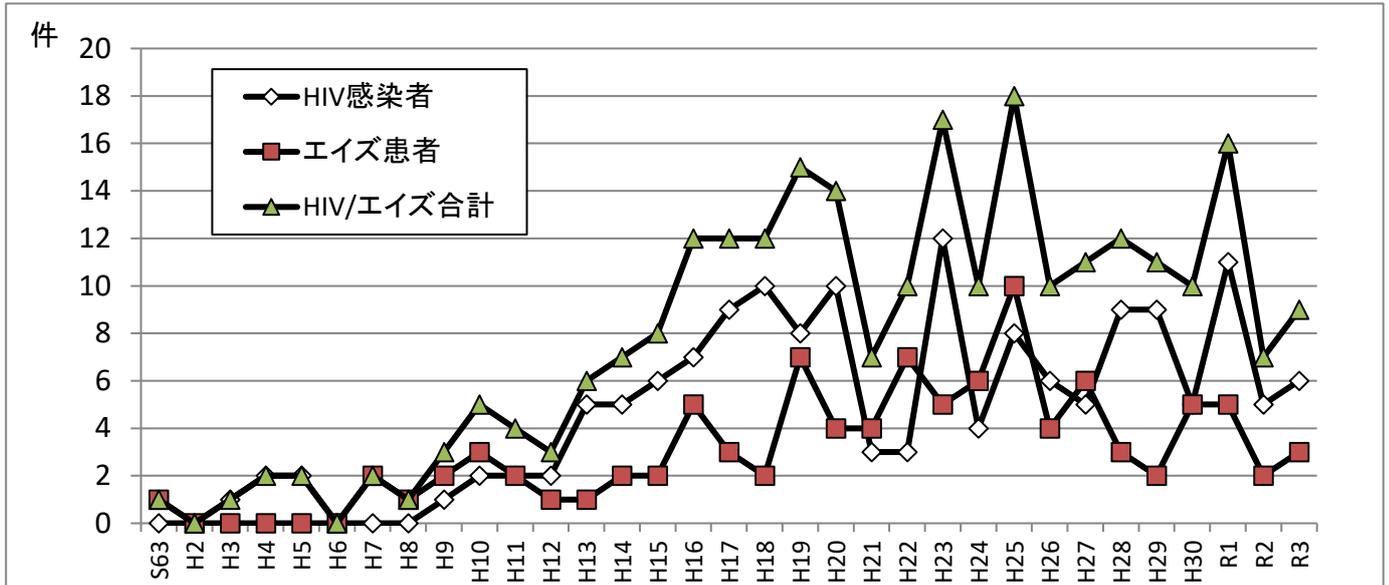
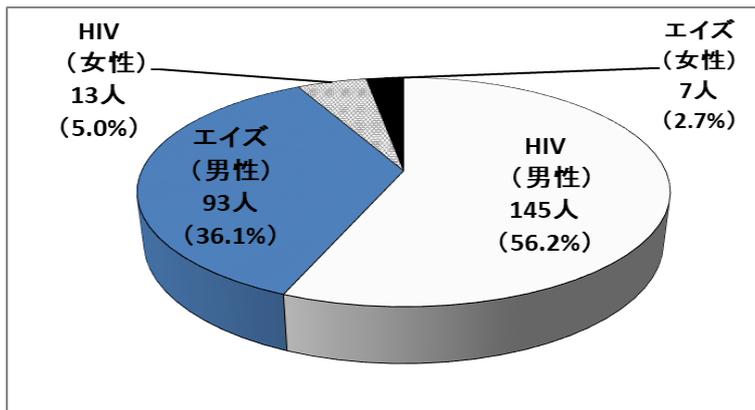


図4 仙台市のHIV感染者・エイズ患者 累積報告数の性別割合【昭和63年～令和3年 ※R3年は速報値】



【累積報告数（S63年～R3年）】

HIV感染者 158件

エイズ患者 100件

(2) いきなりエイズ率

※「いきなりエイズ率」とは、HIV感染を認知せずにエイズを発症した事例の割合を言う。

・令和2年の全国の「いきなりエイズ率」は31.5%で前年より増加した。【図5】

・仙台市の「いきなりエイズ率」は、年によってばらつきがあり、令和2年は28.6%であった。【図5】

・過去5年の仙台市の累積報告は、年齢が上がるほどエイズ患者の報告が多くなり、50代以上では半数以上がエイズ患者として報告されている。【図6】

図5 全国及び仙台市の「いきなりエイズ率」の年次推移（平成22年～令和2年）

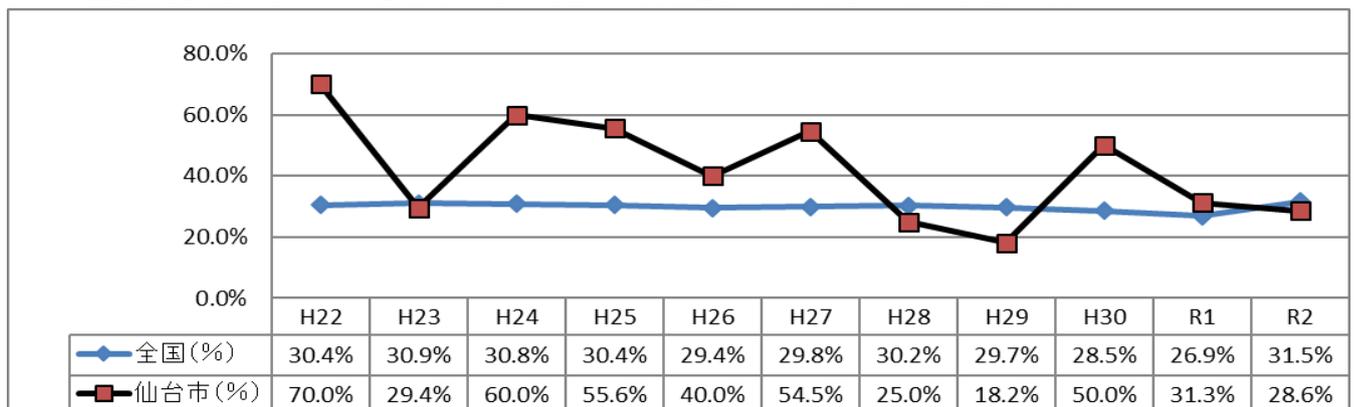
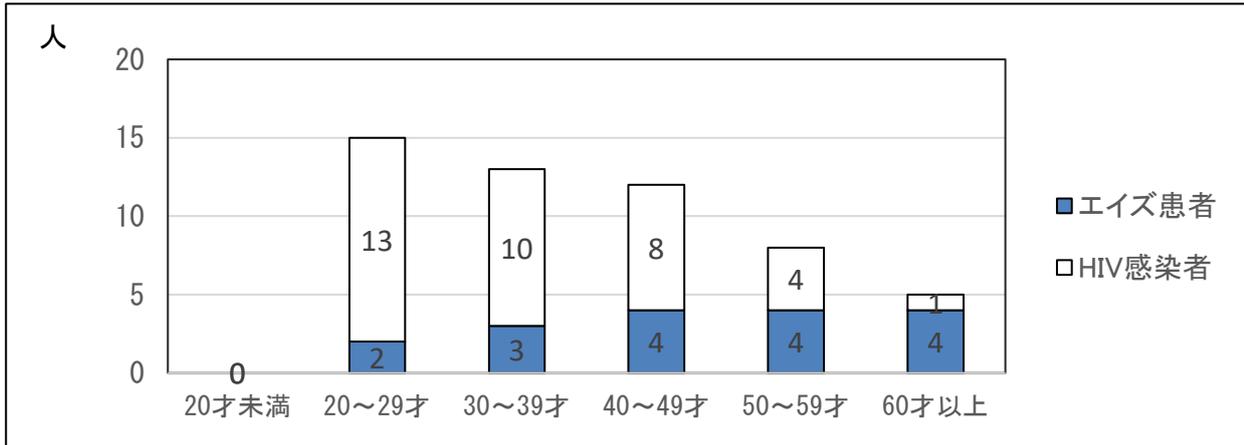


図6 仙台市のHIV感染者・エイズ患者年齢別割合【平成29年～令和3年累計】



(3) 仙台市のHIV感染者・エイズ患者の推定感染原因

- 過去5年の累積報告における推定感染原因【図7】
 - ・推定感染原因が判明している方は91%で、すべて性的接触による感染であった。
 - ・同性間性的接触が大部分を占め、70%であった。異性間性的接触・同性間性的接触の両方の可能性がある方が2%だった。
- 年次推移報告【図8】
 - ・過去5年間のいずれの年においても同性間性的接触件数が最も多い。

図7 仙台市の推定感染原因別感染者・患者報告割合【平成29年～令和3年累計】

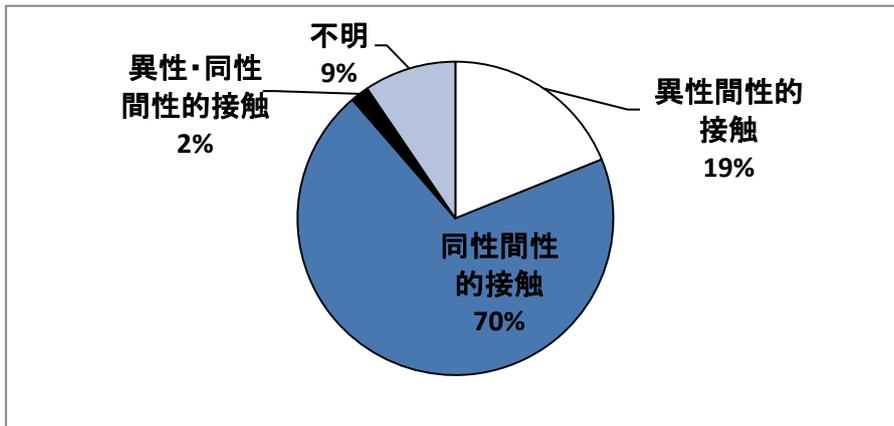
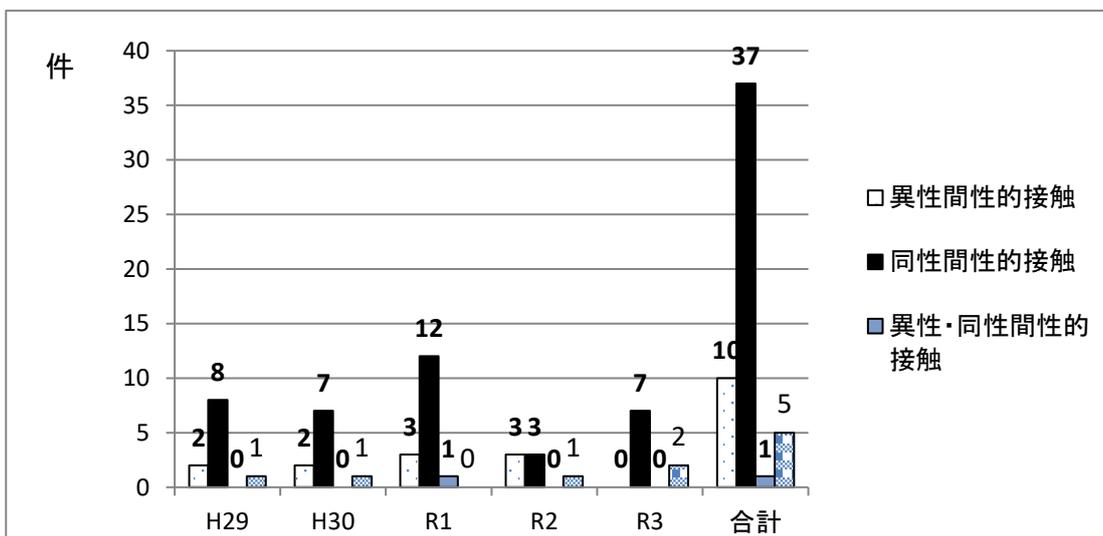


図8 仙台市の感染経路別報告数年次推移【平成29年～令和3年】



2. 梅毒発生動向

○ 全国の状況（令和3年は速報値）

・平成23年以降増加傾向にあり、特に平成28年から平成30年にかけて大幅な増加がみられ、その後も感染者の多い状況が続いている。令和3年の報告数（速報値）は7,873件と前年の約1.3倍に感染が急増した。

・男女別で見ると、過去5年間、いずれの年も男性の報告数が女性よりも多いが、女性の報告割合も増加している。【図10・図11】

・令和2年の報告を性別・年代別にみると、20代女性の報告が最も多い。男性は20代～40代に多く、女性は20代が突出して多い。【図12・図17④⑤⑥】

図9 全国の病期別梅毒報告数の推移【平成20年～令和3年 ※R3年は速報値】

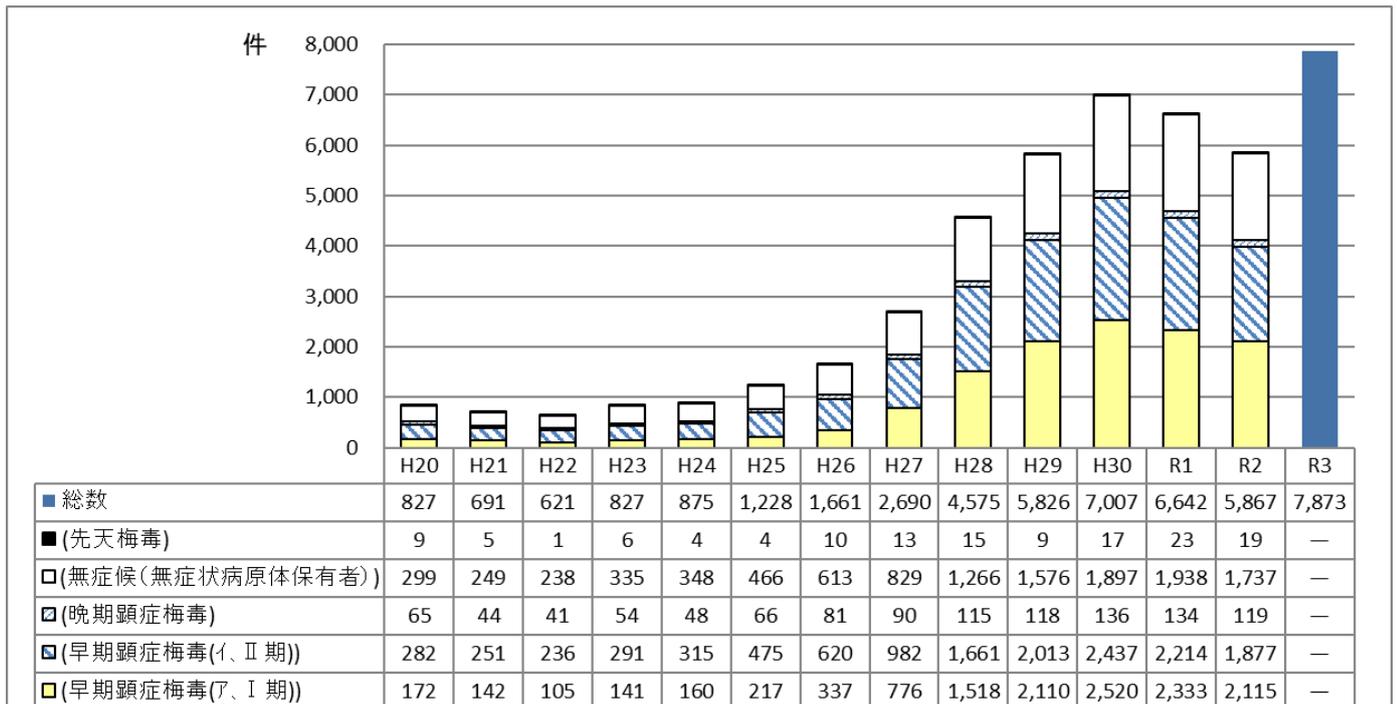


図10 全国の男女別梅毒報告数の推移【平成28年～令和2年】

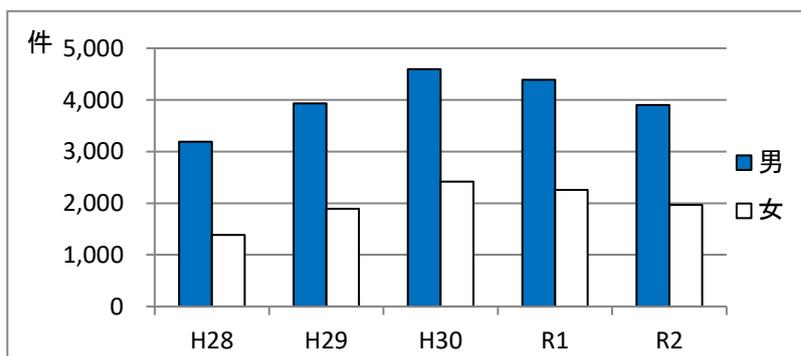


図11 全国の梅毒報告の男女比の推移【平成28年～令和2年】

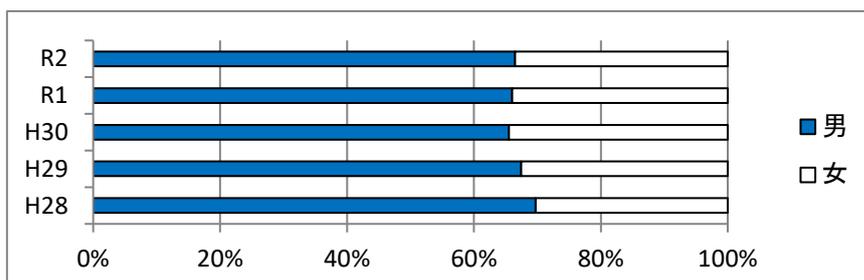
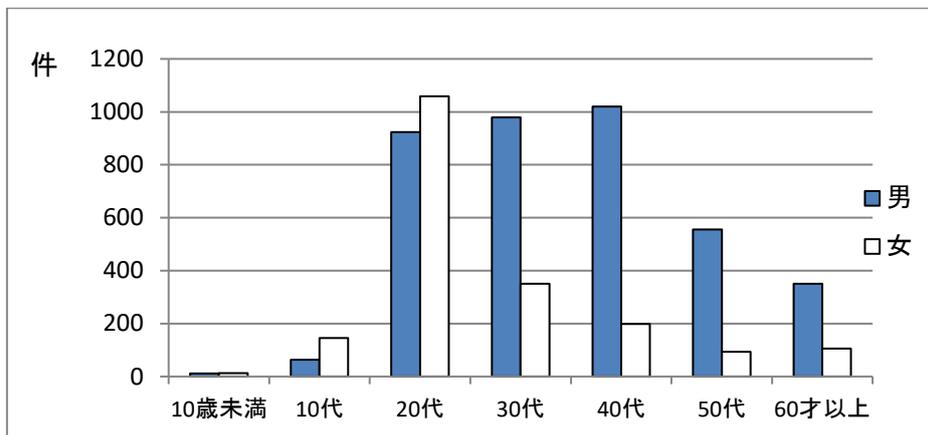


図 12 全国の年代別梅毒報告数【令和 2 年】



○ 仙台市の状況（令和3年は速報値）

・仙台市の梅毒報告数は、平成25年に急増したものの、平成26年に一旦減少したが、平成27年以降増加傾向にあり、特に平成29年以降、報告数の多い状態が続いている。令和3年は84件と前年の約1.7倍の報告があり、全国の前年増加比を上回っている。

【図13】

・男女別にみると、女性の報告割合が全国に比べやや多い傾向がある。【図14・15】

・令和3年の報告を性別・年代別にみると、20代女性が最も多く、男性は30代・40代に多い。また、先天梅毒の報告が1件あった。【図16・図17①②③】

図13 仙台市の病期別梅毒報告数の推移【平成20年～令和3年 ※R3年は速報値】

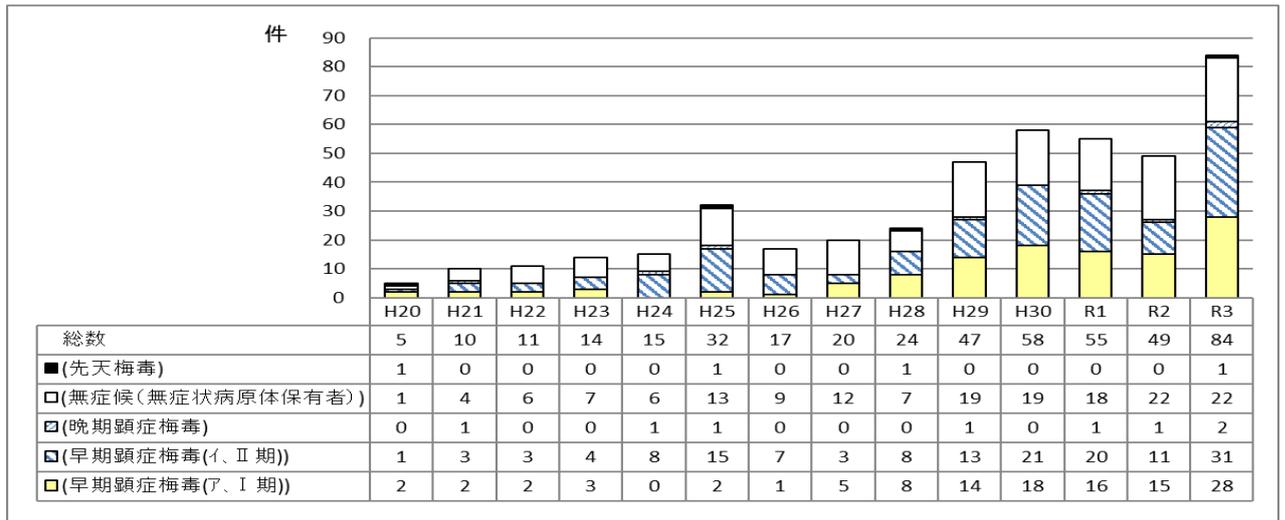


図14 仙台市の男女別梅毒報告数の推移【平成29年～令和3年 ※R3年は速報値】

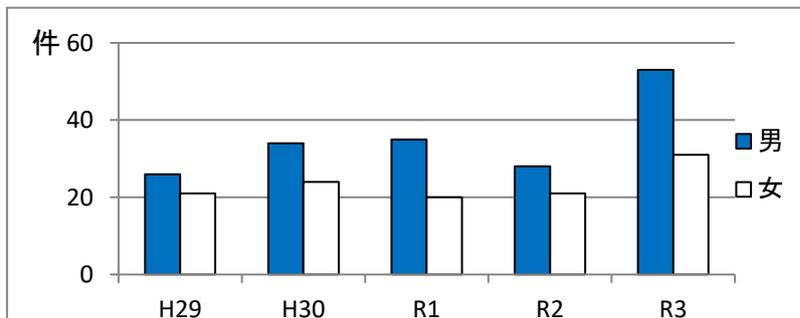


図15 仙台市の梅毒報告の男女比の推移【平成29年～令和3年 ※R3年は速報値】

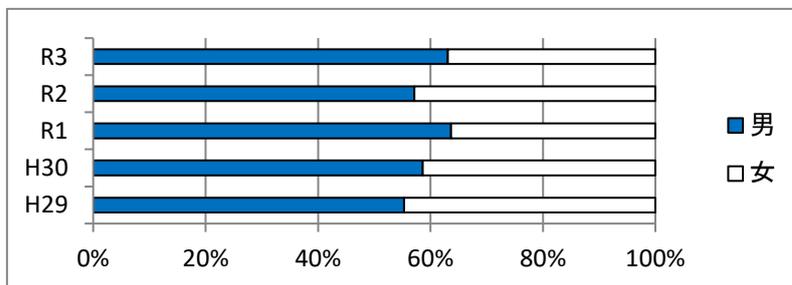


図16 仙台市の年代別梅毒報告数【令和3年 ※速報値】

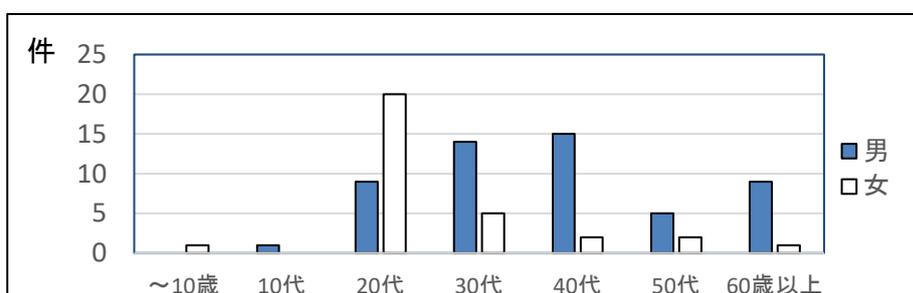
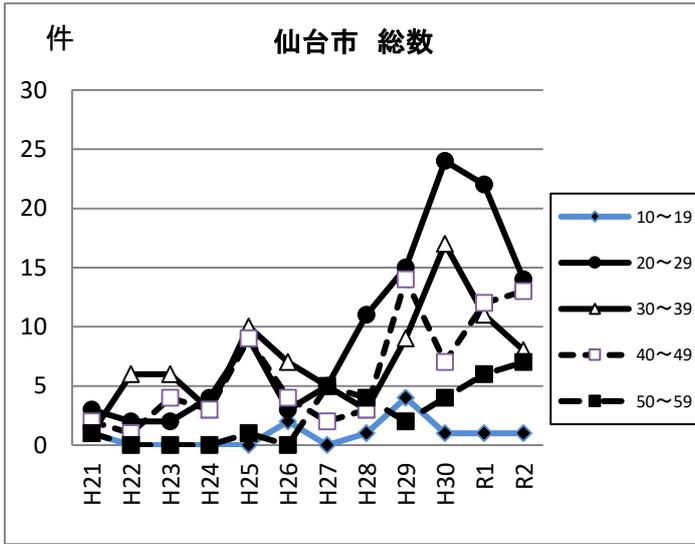
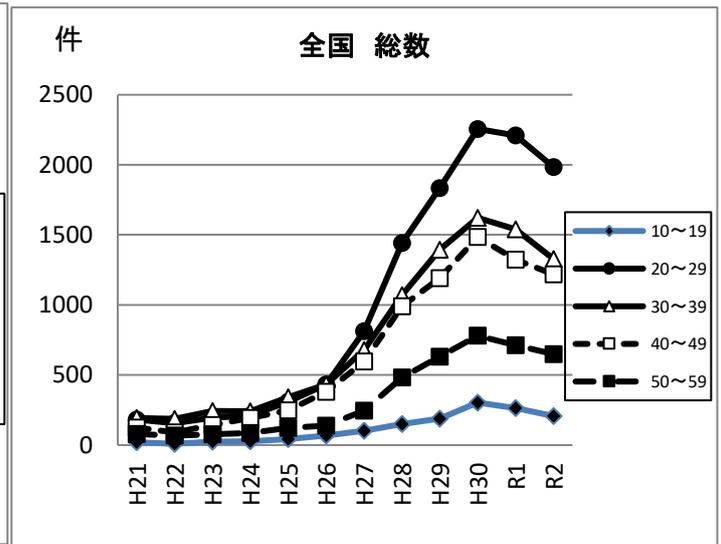


図 17 仙台市・全国の性別・年代別梅毒報告数の推移【平成 21 年～令和 2 年 10 代～50 代】

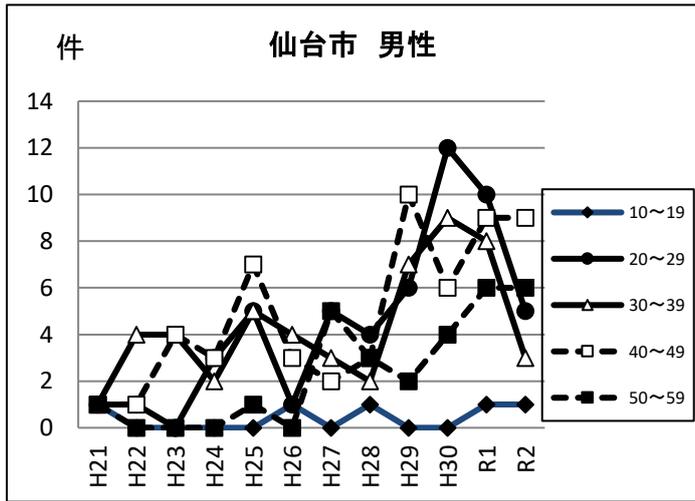
①



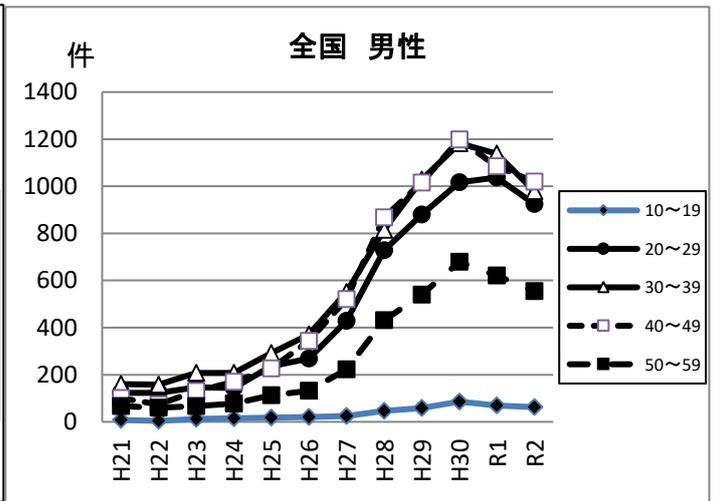
④



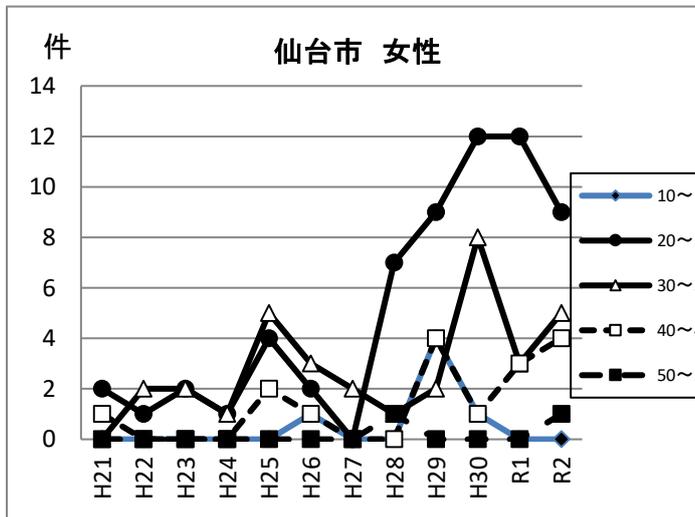
②



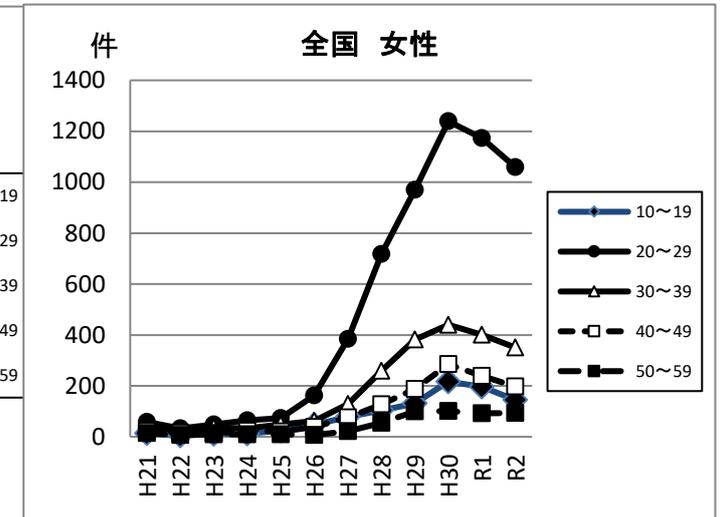
⑤



③



⑥



○ 梅毒発生届に追加となった事項のまとめ（仙台市の状況）【表 1】

- ・平成 31 年 1 月より、医療機関からの梅毒届出事項に以下の項目が追加された。
 - ①性風俗産業の従事歴の有無（直近 6 か月以内） ②性風俗産業の利用歴の有無（直近 6 か月以内） ③口腔咽頭病変の有無 ④妊娠の有無 ⑤梅毒の治療歴の有無 ⑥HIV 感染症の合併の有無
- ・仙台市の令和 3 年の梅毒報告数（速報値）84 名（男性 53 名、女性 31 名）の内訳は表 1 のとおりであった。
- ・仙台市の届出のうち、直近 6 か月以内に性風俗産業の従事歴・利用歴があると確認されている者の割合は、令和 3 年は 35.7%である。当該項目の記載がなかった届出もあるため、断定は難しいが、過去 2 年に比べると感染者に占める性風俗産業の従事歴・利用歴がある者の割合は減少している可能性がある。【表 2】

表 1 仙台市の梅毒患者の状況【令和 3 年届出分 ※速報値】

①性風俗産業の従事歴（直近 6 か月以内）

区分	男性（53 名中）	女性（31 名中）
あり	2	14
なし	34	14
不明 ※	17	3

※不明：発生届への記載がなかった 12 件を含む

②性風俗産業の利用歴（直近 6 か月以内）

区分	男性（53 名中）	女性（31 名中）
あり	14	2
なし	23	18
不明 ※	16	11

※不明：発生届への記載がなかった 16 件を含む

③口腔咽頭病変

区分	男性（53 名中）	女性（31 名中）
あり	1(*)	0
なし	52	31

*初期硬結（口腔咽頭）

④妊娠

区分	女性（31 名中）
あり	2(*)
なし	29

*週数：妊娠 14 週 1 名、妊娠 34 週 1 名

⑤梅毒の治療歴

区分	男性（53 名中）	女性（31 名中）
あり	1(*)	1(*)
なし	50	29
不明	2	1

*治療時期：1 年より前 2 名

⑥HIV 感染症の合併

区分	男性 (53 名中)	女性 (31 名中)
あり	2	0
なし	16	16
不明 ※	35	15

※不明:発生届への記載がなかった1件、
検査中1件を含む

表 2 性風俗産業の従事歴・利用歴ありと確認されている者の割合

【仙台市の令和元年～3年の状況 R3年は速報値】

区分	全梅毒報告数 (件)	性風俗産業の従事歴 ・利用歴あり(件) (直近6か月以内・実数)	性風俗産業の従事歴 ・利用歴ありの者の割合 (直近6か月以内)
令和元年	55	25	45.5%
令和2年	49	20	40.8%
令和3年	84	30	35.7%

3. その他の性感染症の発生動向

・性感染症4疾患の定点あたり報告数については、仙台市の報告数は全国の報告数に比較して多い傾向にある。特に、尖圭コンジローマ、ヘルペス、クラミジアにおいてその傾向が強い。

【図18】

・令和2年の仙台市と全国の4疾患の定点あたり報告数を年代別・性別にみると、クラミジアは10代・20代女性の報告が特に全国と比べ多い。ヘルペスは、30代前半男性と20代前半女性が全国よりも特に報告数が多い。淋菌は20代後半を除いた10代から30代の女性が全国よりも報告数が多い。尖圭コンジローマは、男性は幅広い年代で、女性は40代が全国に比べ報告数が多い。

【図19】

※ 性感染症4疾患は定点報告

※ 令和2年の性感染症4疾患の定点医療機関として、産婦人科5か所、泌尿器科3か所に調査を依頼している。

図18 全国・仙台市性感染症定点あたり報告数の年次推移【平成28年～令和2年】

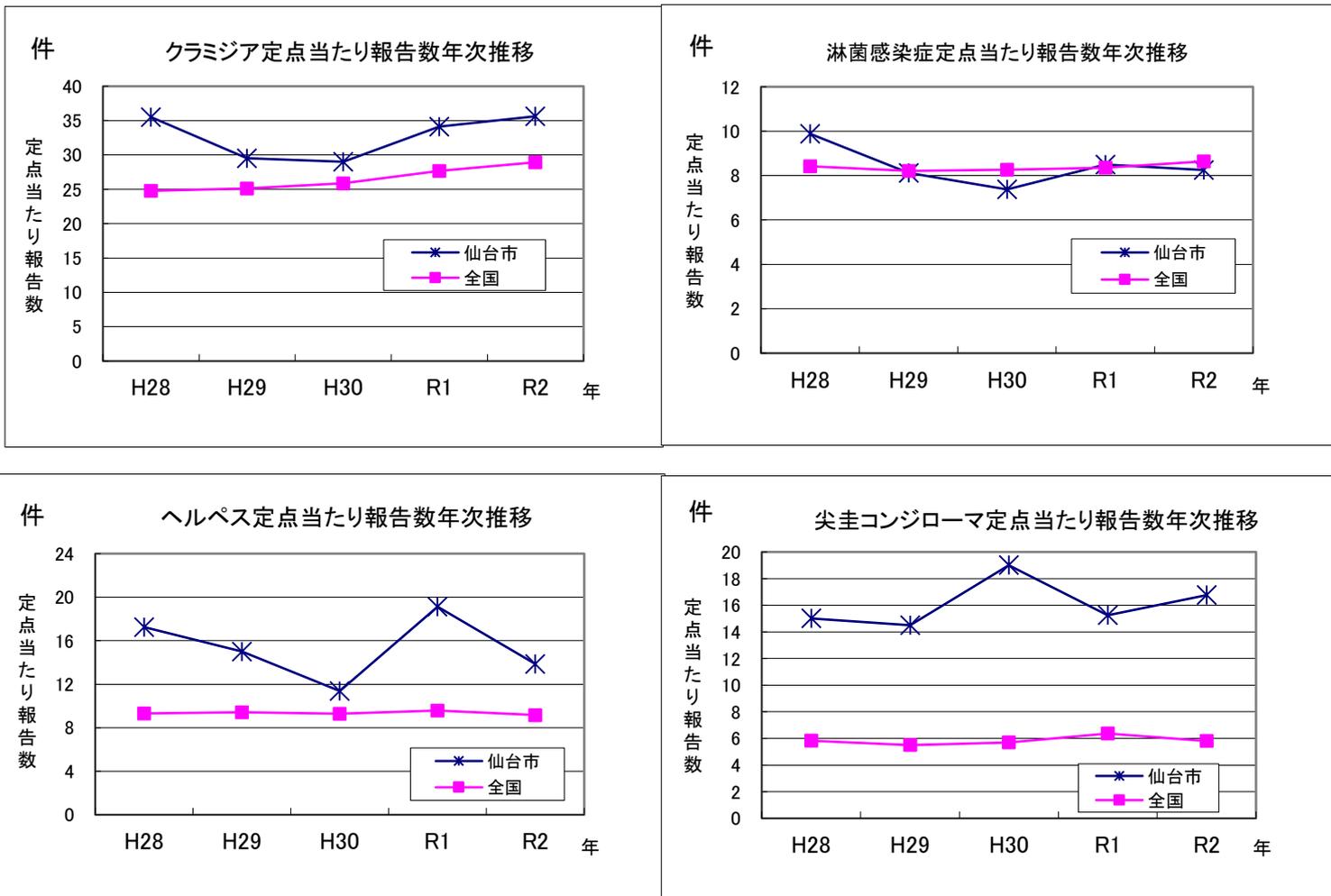
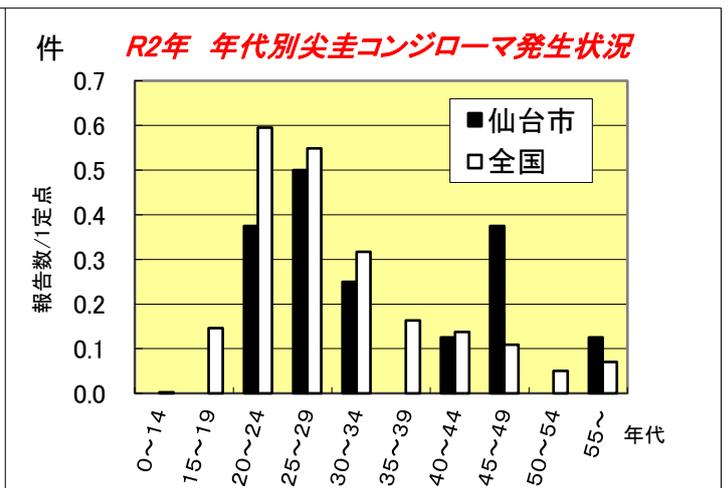
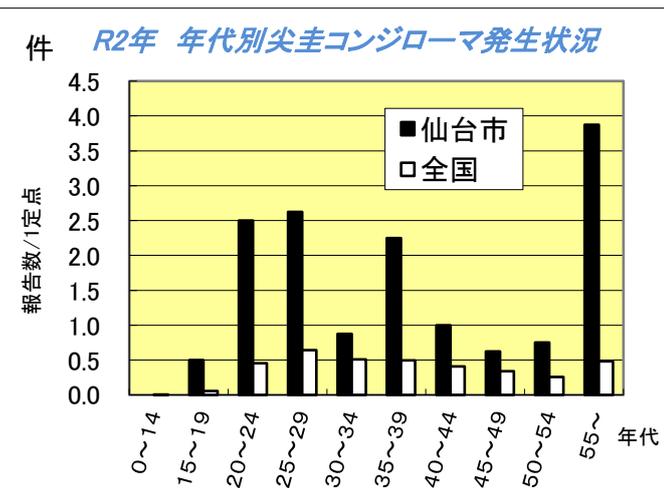
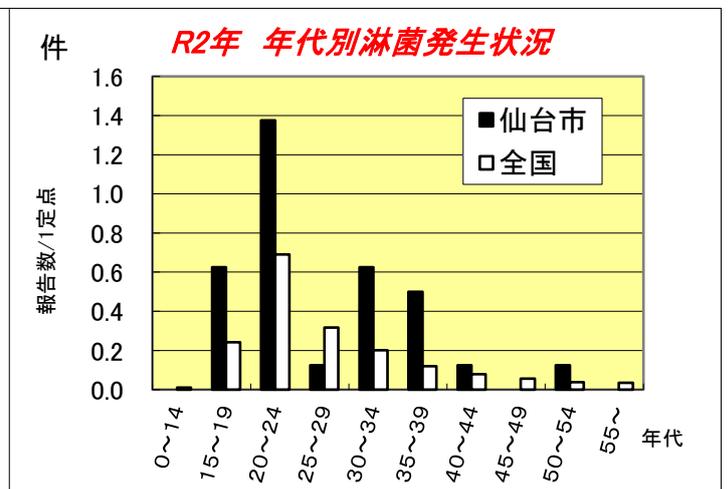
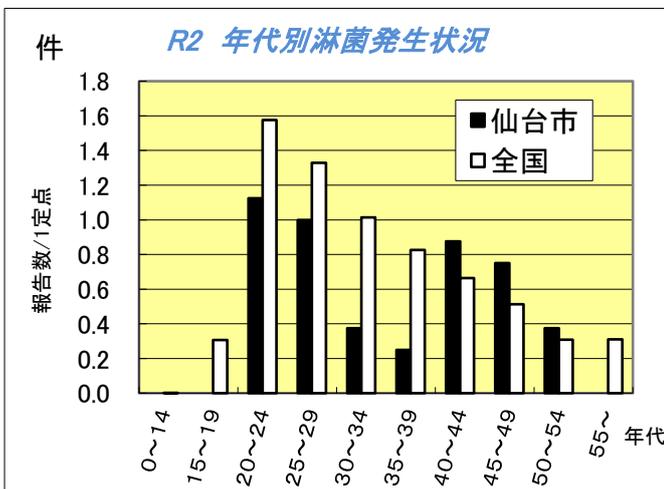
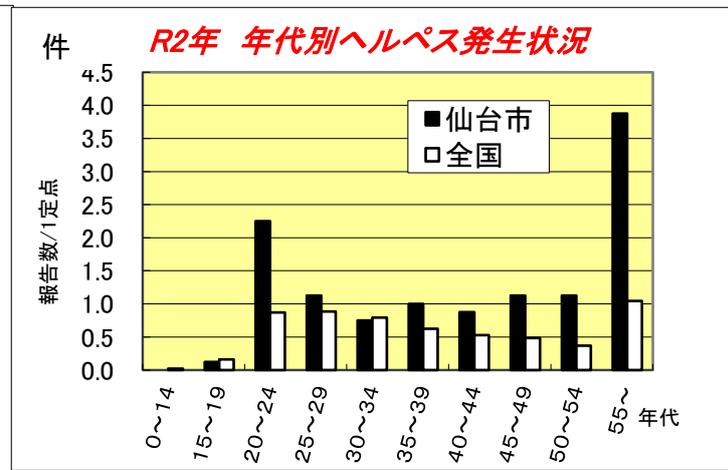
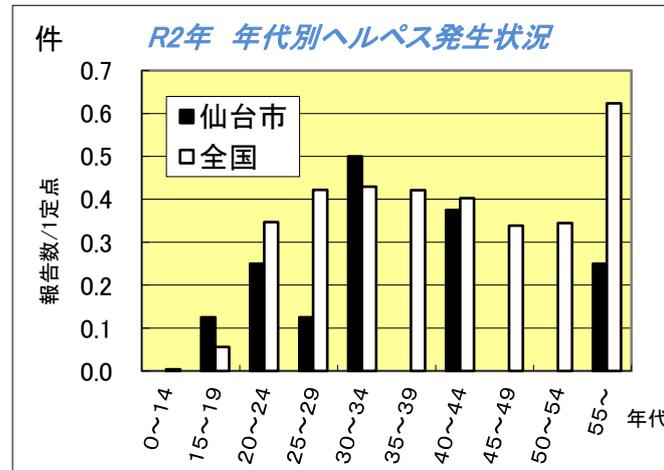
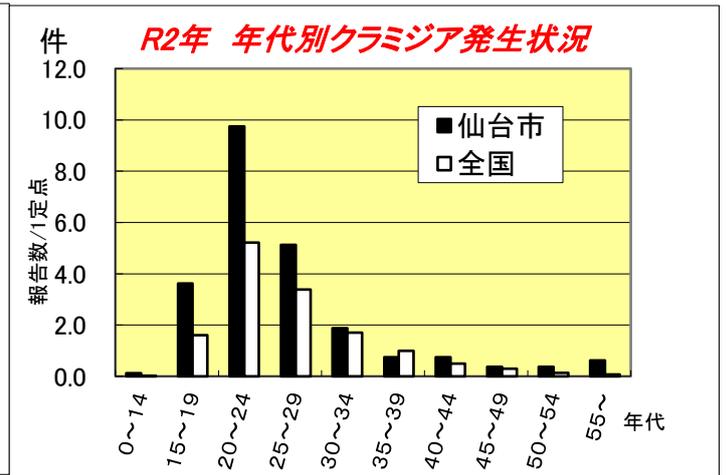
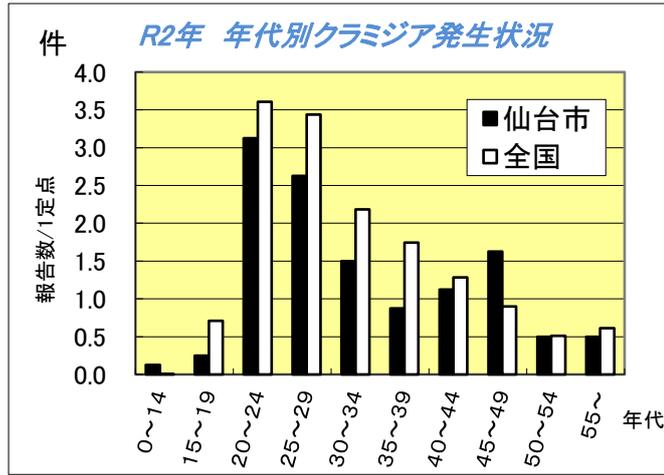


図 19 令和 2 年 年代別・性別 性感染症発生状況（全国・仙台市との比較）

< 男性 >

< 女性 >



4. 仙台市保健所の HIV・性感染症検査の実施状況

※検査状況は年度で集計しております。

(R3 年度は 12 月末現在)

(1) HIV 検査

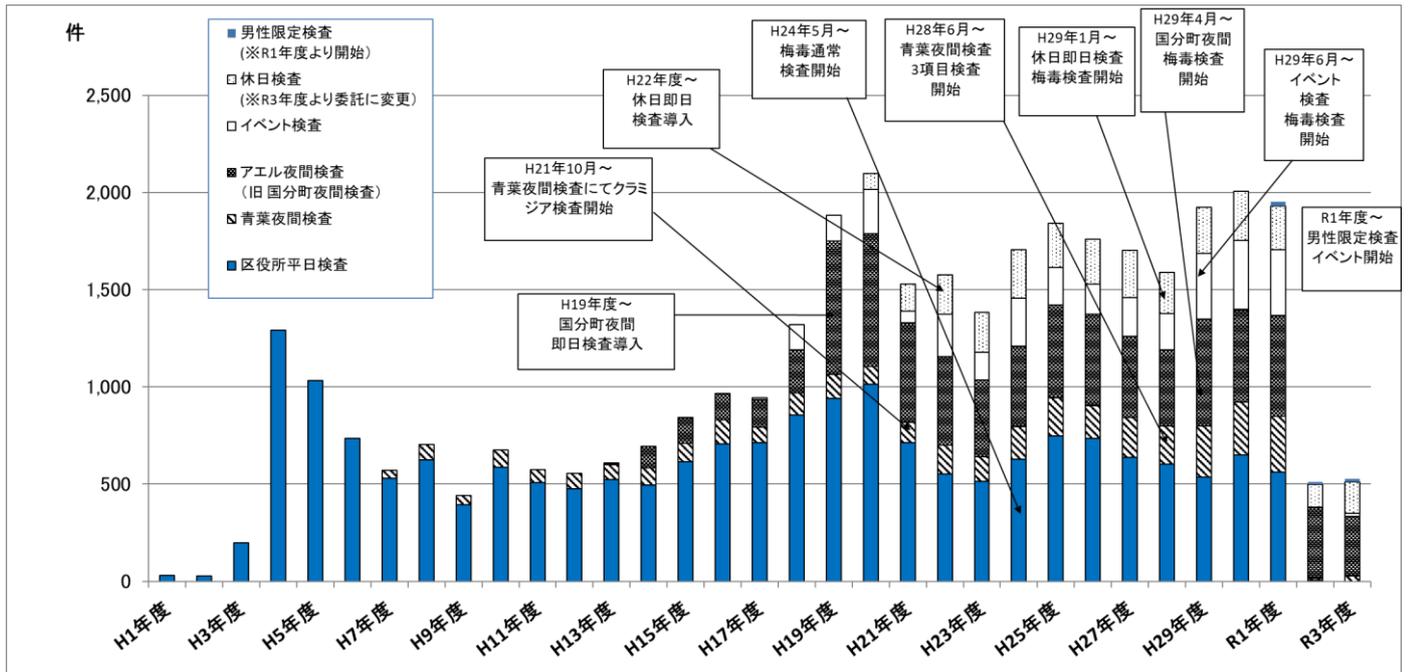
- ・令和 2 年度より新型コロナウイルス感染症対応のため、一部検査を休止するとともに、継続実施する検査についても、密を避けるために各回 5～10 名程度定員を縮小して行っている。
- ・安定した検査体制の確保のため、令和 3 年 4 月より、青葉区役所にて保健所直営で実施していた休日検査を宮城県結核予防会への委託に変更、これに伴い検査会場を健康相談所 興生館に変更している。
- ・令和 3 年度 12 月末現在の検査数は 526 件である。前年同時期は 378 件であった。
- ・検査から、令和 2 年度は 1 名、令和 3 年度は 2 名の新規陽性者が判明している。

表 3 仙台市保健所の HIV 検査件数【平成 28 年度～令和 3 年度 ※R3 年度は 12 月末現在】

※①～⑥の各項目：上段が件数(件)、()内は 1 回平均受検者数、下段が割合(%)

年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	R1 年度	R2 年度	R3 年度 (12 月末現在)	
検査数(件)	1,590	1,923	2,006	1,951	510	526	
内 訳	① 区役所平日※	604 (4.3)	536 (3.8)	650 (4.6)	563 (4.1)	7 (1.8)	0
		38.0	27.9	32.4	28.9	1.4	0
	② 青葉区役所 夜間※	193 (19.3)	264 (22)	271 (22.6)	287 (23.9)	9 (9)	29 (14.5)
		12.1	13.7	13.5	14.7	1.8	5.5
	③ 休日※ (H22～即日、R3.4 月よ り健康相談所 興生館 に会場変更)	212 (21.2)	238 (23.8)	254 (25.4)	225 (25.0)	117 (13.0)	160 (17.8)
		13.3	12.4	12.7	11.5	22.9	30.4
	④ イベント(即日) ※	187 (93.5)	338 (169)	352 (176)	337 (168.5)	0	18 (18)
		11.8	17.6	17.5	17.3	0	3.4
	⑤ アエル夜間※ (H19～即日) (旧 国分町夜間 H31.1 月～アエル に会場変更)	394 (17.1)	547 (23.7)	479 (20.8)	518 (22.5)	364 (15.8)	304 (17.9)
		24.8	28.4	23.9	26.6	71.4	57.8
	⑥ 男性限定検査※ (即日、R1 年度より 開始)	—	—	—	21 (21)	13 (13)	15 (15)
					1.0	2.5	2.9
陽性者数(人)	4	5	3	3	1	2	
陽性率(%)	0.25	0.26	0.15	0.15	0.26	0.38	
陽性者受検会場(人)	①2 ④1 ⑤1	①1 ④2 ⑤1	①2 ⑤1	①1 ②1 ⑤1	③1	③1 ④1	

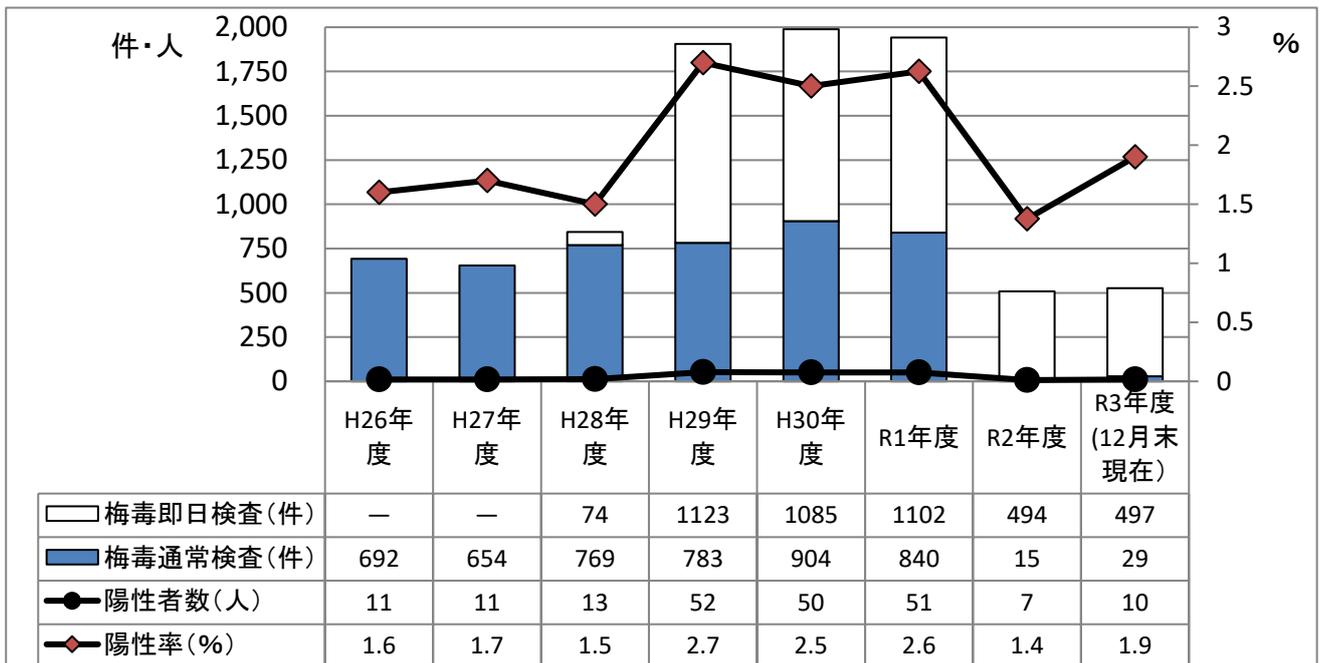
図 20 仙台市保健所のHIV検査件数の推移(※R3年度は12月末現在)



(2) 梅毒検査

- ・梅毒検査を段階的に拡充し、平成 29 年度より全検査会場で受検が可能となった。HIV との同時受検を必須とし、梅毒単独の受検は認めていない。
- ・令和 2 年度より新型コロナウイルス感染症対応に伴い検査体制を縮小しており、令和 2 年度の検査件数は 509 件（即日検査 494 件、通常検査 15 件）であった。
- ・令和 3 年度 12 月末現在の検査件数は 526 件（即日検査 497 件、通常検査 29 件）である。前年同時期は 377 件であった。
- ・平成 29 年度より梅毒の陽性率が上昇しており、その要因としては、梅毒即日検査では過去の治療歴でも陽性となることの影響、梅毒流行の影響、いずれも考えられるが、検査体制を縮小した令和 2 年度以降陽性率は低下している。【図 21】

図 21 仙台市保健所の梅毒検査件数【平成 26 年度～令和 3 年度 ※R3 年度は 12 月末現在】



※梅毒検査の拡充の経過

- ・H24 年 5 月～ 平日区役所検査で開始
- ・H28 年 5 月～ 青葉区役所夜間検査で開始
- ・H29 年 1 月～ 休日検査（即日）で開始
- ・H29 年 4 月～ 国分町夜間検査（即日）で開始
- ・H29 年 6 月～ イベント検査(即日)で開始、全検査会場で受検が可能となる

(3) クラミジア検査

- ・仙台市のクラミジア検査は、平成 21 年 10 月より青葉区役所夜間検査で実施しており、青葉区役所夜間検査では HIV・梅毒と併せて最大 3 項目の同時検査が可能である。
- ・令和 2 年度は 4 月のみ検査を行い、以後は新型コロナウイルス感染症対応のため検査を休止してきたが、令和 3 年 11 月より再開している。【図 22・表 4】
- ・令和 2 年度の検査件数は 10 件でそのうちの陽性は 2 件、令和 3 年度の検査件数は 28 件でそのうちの陽性は 3 件であった。【表 4】

図 22 青葉区役所夜間 HIV 検査・クラミジア検査受検者数の推移
【平成 20 年度～令和 3 年度 ※R3 年度は 12 月末現在】

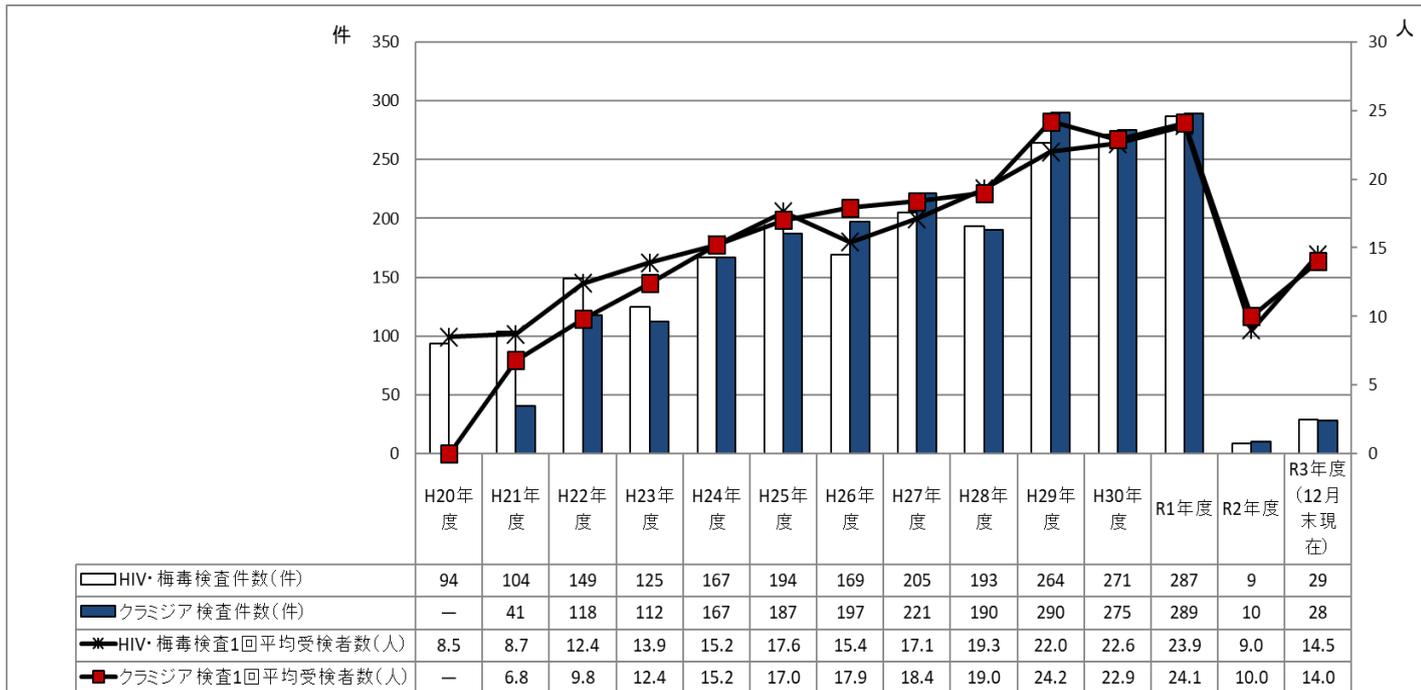


表 4 仙台市のクラミジア検査件数と陽性率の推移
【平成 26 年度～令和 3 年度 ※R3 年度は 12 月末現在】

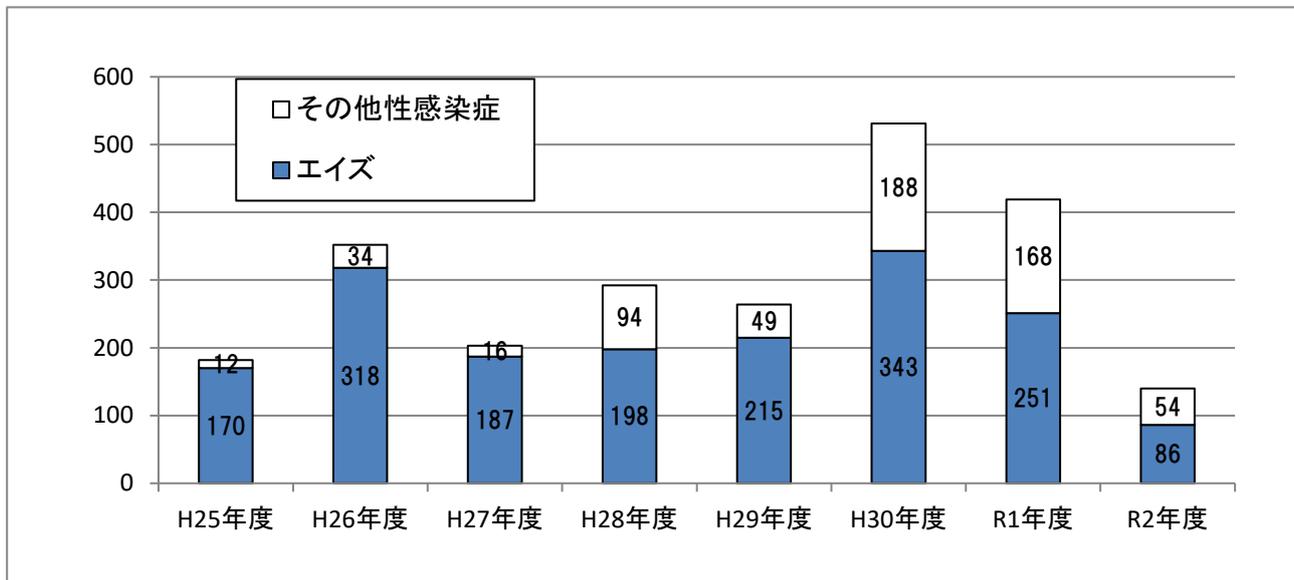
	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度 (12月末現在)
クラミジア検査件数(件)	197	221	190	290	275	289	10	28
クラミジア陽性者数(人)	8	19	7	20	17	13	2	3
クラミジア陽性率(%)	4.1	8.6	3.7	6.9	6.2	4.5	20.0	10.7

5. 仙台市のエイズ・性感染症相談

・エイズ・性感染症についての相談を、電話・来所にて受け付けている。平成30年度及び令和元年度はHIV/エイズ以外の性感染症に係る相談が増加しており、特に梅毒に関する相談が増加した。【図23】

・令和2年度は前年度までに比べ大幅に相談件数が減少した。検査体制縮小により来所相談が減少したほか、電話相談も前年比の約半数に減少しており、大幅な減少となった。【図23】

図23 仙台市の相談数の推移【平成25年度～令和2年度】



6. 仙台市のHIVによる免疫機能障害による身体障害者手帳交付状況

・令和3年3月末現在、仙台市でHIVによる免疫機能障害による身体障害者手帳を所持されている方は149名である。【図24】

・令和3年3月末現在、手帳交付を受けている60代以上の方は17名である。なお、昨年は15名であり、2名の増加ではあるが、今後さらに増加していくことが予測される。【図25】

図24 HIVによる免疫機能障害による身体障害者手帳所持者数の年次推移【平成17年度～令和2年度】

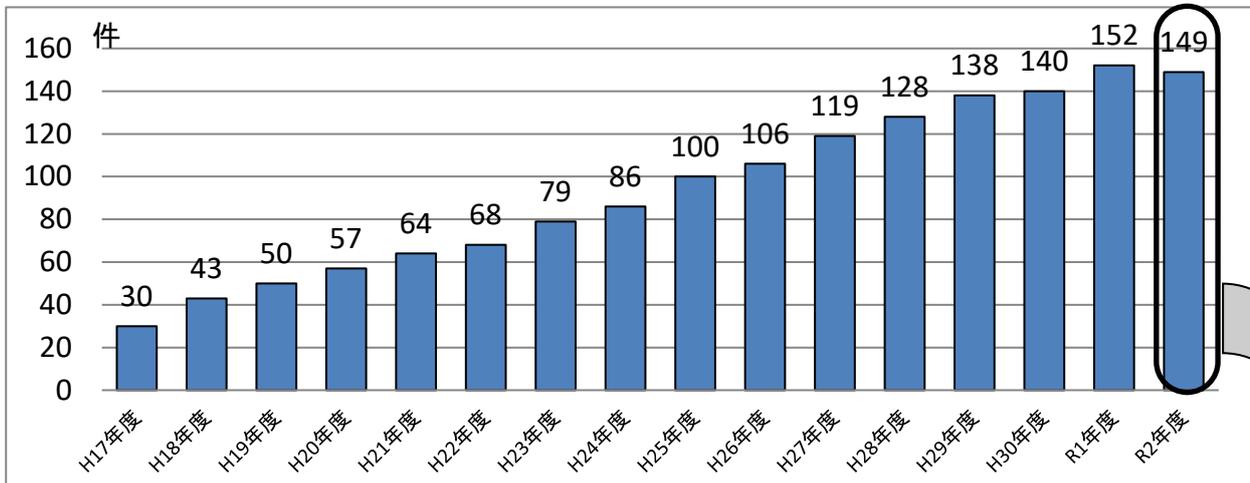
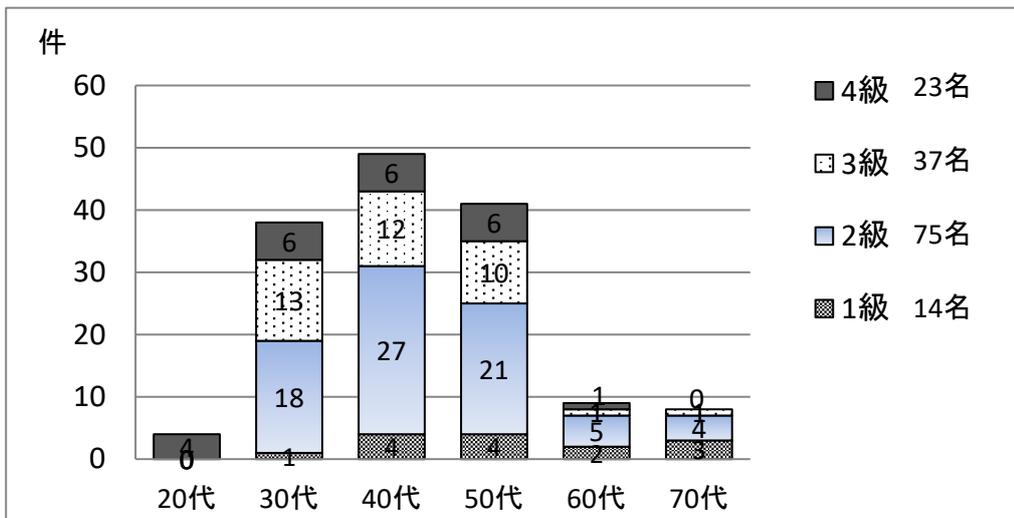


図25 等級・年代別 HIVによる免疫機能障害による身体障害者手帳所持者数（令和2年度末現在）



※ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害 障害程度等級表

1級	ヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能の障害により日常生活がほとんど不可能なもの
2級	ヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能の障害により日常生活が極度に制限されるもの
3級	ヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能の障害により日常生活が著しく制限されるもの (社会での日常生活活動が著しく制限されるものを除く。)
4級	ヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能の障害により社会での日常生活活動が著しく制限されるもの